

海老根伝統手漉和紙

薬品などを一切使わない純粋な原料から作る海老根手漉和紙は、丈夫であり、時間が経てば経つほど白みを帯びるのが特徴。江戸時代から昭和63年まで続いた紙すきを、平成10年に海老根伝統手漉和紙保存会が復活させた。平成15年から、海老根手漉和紙工房周辺で、和紙の魅力を発信するイベント「海老根長月宵あかり・秋蛸」を開催し、地域の人々や小中学校の生徒が絵付けした数百の行灯を道沿いに置き、ろうそくを灯して幻想的な明かりを楽しんでいる。



◇問い合わせ先／海老根伝統手漉和紙保存会 TEL 024-943-4264

三春駒

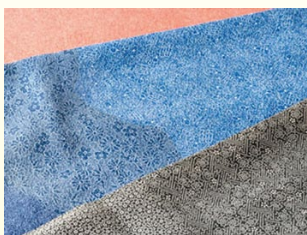
「三春駒」は、坂上田村麻呂東征の伝説に由来する「高柴子育木馬(タカシバコソダテキンマ)」が発祥と言われている。名馬の産地として知られた三春ならではのたくましい馬体が特徴で、直線と面を活かした巧みな馬体と洗練された描彩の評価は高い。かつて三春藩に保護された工人の集落、高柴デコ屋敷で受け継がれている。



◇問い合わせ先／郡山市観光協会 TEL 024-924-2624

江戸小紋

柄が非常に小さく一見無地の様に見える「江戸小紋」は、江戸時代に始まった技法の事を指し、一般的な小紋と区別するため昭和30年に命名された。柿渋を塗った和紙を彫った型紙を使い、鯨小紋、行儀、通しなどの模様を単色で染めるのが一般的。江戸小紋作りを受け継ぐ『形幸』が、須賀川で唯一伝統を継承している。



◇問い合わせ先／染工芸 形幸 TEL 0248-76-3622

大堀相馬焼



大堀相馬焼は、浪江町大堀地区で生産されている焼き物。素朴な味わいと親しみやすさをもつ、日常づかいの陶器。「青ひび」と呼ばれるひび割れの地模様と「走り駒」の絵柄、お湯が冷めにくく、熱くても手に持つことができる「二重焼」がで全国に知られているが、それは相馬焼の技法のひとつにすぎないそう。最近では、若い担い手によって伝統的なデザインにこだわらない作品も誕生している。

◇問い合わせ先／大堀相馬焼協同組合 TEL 0240-35-4917

上川崎和紙



二本松市(旧安達町)上川崎地に伝わる和紙づくり。平安の昔から現在まで、原料となる楮の栽培・刈り取りから天日干しまで、一枚一枚丹念に手作業で行われている。平安の中頃に始められたと伝わる上川崎和紙は、当時は「みちのくの紙」と称され、紫式部や清少納言が好んだ「まゆみがみ」もこの地で漉かれたものと言われている。さまざまな工程を経てできあがった和紙は、丁寧に加工され、現代感覚にもマッチするインテリア素材としても人気を高めている。

◇問い合わせ先／二本松市和紙伝承館 TEL 0243-61-3200

歴史を背負い、幾多の困難を乗り越えながら現代になお文化を伝える人々の心と技。ひとつひとつの作品の背景に思いを寄せると、よりいっそうの価値が感じられるものですね。

伝統工芸

あぶくまの里に伝わる